

スピリチュアリティとエネルギーケアの理解を深めよう！ スピエネット連続フォーラム17～18

「瞑想と祈り」シリーズ・第1回 「瞑想」と「祈り」とは何か・・・

スピリチュアリティとエネルギーケアを深めるスピエネットの新シリーズは、満を持して「瞑想」と「祈り」をテーマにした連続講座を行います。毎回、この領域の研究者、実践家が登壇して様々な角度から「瞑想」と「祈り」について、ホリスティックな視点からじっくりと深めていきます。

テーマに相応しい素晴らしい講師陣が揃った必聴の内容です。「スピリチュアリティ」と「エネルギー医学」に関心をお持ちの方は、ぜひ、この貴重な連続講座にご参加下さい。

★13：30～14：30「インド精神史における瞑想の諸形態」 合田秀行（日本大学文理学部教授・仏教学/比較思想）

インドにおける瞑想を取り入れた修道論の体系を中心として、瞑想の歴史と諸形態を概説します。特に仏教の瑜伽行派（唯識学派）の修道論における「瞑想に取り組む以前の準備的な行」と「瞑想の究極的な境位」について言及します。さらに瞑想が持つ普遍性を考察するためにも、他の諸伝統で見られる瞑想との比較思想的な考察を試みます。

★14：40～15：40「日本の『神秘哲学』に祈りの構造を見る」久保隆司（山梨学院大学国際リベラルアーツ学部兼任講師・神道学/心理学）

古代より、神道での祈りといえば第一に「大祓詞」です。江戸初期、神道を始め数多の教えを統合した巨人・山崎闇斎も最重要視し、日本を代表する「神秘哲学」体系を構築しました。現代に至る日本人の思考行動様式や社会構造の根底を形成しています。今回は、祈り（祈禱）を根幹とした「統合人」たらんとする、闇斎神学の基本構造の一端をご紹介します。

★15：50～16：45 対話<ダイアログ> 合田秀行 × 久保隆司（進行）有本匡男（協会常任理事）

「瞑想」と「祈り」の概念と歴史を整理し、2回目以降のための基本的な認識を深めるためのダイアログを行います。



■日 時:2017年10月7日(土)13:30～16:45

■場 所:連合会館 401号室

■参加費:

シリーズ全4回 ①会員 10,000円 ②一般 14,000円

今回のみ参加 ③会員 3,000円 ④一般 4,000円

* 会員とは主催、共催、協力団体の会員(ヒーリングタッチ東京はヒーリングタッチ・スチューデントが会員扱い)を指します。

■申し込み手順

1. 必要事項(1 氏名、2 住所、3 電話、4E-mail、5 所属(①会員(団体名)・②一般)を、ho-kanto@tg.rim.or.jpへ(締切9/

29(金))。* または、FAXで 03-5572-8219まで。(当日のみ携帯:080-5484-8008)

2. 申し込み受理のお知らせ到着後 1週間以内にお振込み下さい。三菱東京UFJ銀行 西新宿支店(普通)0057567 特定非営利活動法人日本ホリスティック医学協会

3. お振込み後、受付完了となります。お振込後の参加費はご返却できませんので代理受講でご対応をお願い致します。

<主催>NPO 法人日本ホリスティック医学協会関東フォーラム委員会 (生活習慣病予防指導士3単位)

<協力>日本アントロポソフィー医学のための医師会、日本ノマティック心理学協会、NPO 法人日本ヒーリングタッチ協会、NPO 法人サイレントン療法協会、日本トランスパーソナル学会

<2回目以降のスピエネット連続フォーラムの日時・内容>

全4回：主催・共催・協力団体の会員 10,000円、一般 14,000円

各回：主催・共催・協力団体の会員 3,000円、一般 4,000円

★フォーラムⅡ：2017年12月2日(土) 13:30~16:45 (会場：連合会館401号室)

「瞑想と祈りにみる”痛み”と”否定”」

・「スピリチュアルな痛み」と「いのちの恵み」

島蘭 進 (上智大学教授)

現代のスピリチュアリティの特徴の一つは、「救い」の地位が下がっていることだ。一方、「スピリチュアルな痛み」はとてもリアルに経験される。では、「スピリチュアルな痛み」に向き合うとき人々は何を感じとるのか。「いのちの恵み」について考えてみたい。

・自己否定～瞑想と祈りに通底するもの

本山一博 (玉光神社宮司)

瞑想も、祈りも「大いなるもの」との関わりの中で深まる。その関わりは自己否定によってもたらされる。しかし、自己否定とは分かりにくいものだ。それは、自己犠牲と同じものではないし、単なる自己卑下でもない。もちろん、自分自身に対する否定的な感情でもない。神秘主義における自己否定とは何かを考えてみたい。

○対話<ダイアログ> 島蘭 進 × 本山一博 (進行) 降矢英成 (協会会長、赤坂溜池クリニック院長)

★フォーラムⅢ：2018年2月3日(土) 13:30~16:45 (会場：未定)

「内臓・がんと座禅・瞑想」

・がんの臨床における瞑想の役割

川畑のぶこ (サイモントン療法協会副理事長/ハートシェアリング協会理事)

人生の困難に向き合う時こそ、平常心を保って前向きに生きることが大切です。瞑想は人生の困難をしなやかに乗り越えるのに役立つばかりでなく、免疫系・神経系・ホルモン系など、私たちの生体にも大きく影響を与え、心身の回復を促します。今回は、精神腫瘍学の立場から、カール・サイモントン博士によって提唱される瞑想を紹介します。

・坐禅～内臓系の聲に耳を澄ます～

藤田一照 (曹洞宗国際センター所長)

比較解剖学者の三木成夫は人の身体を「体壁系」と「内臓系」に分けて論じている。この説は坐禅という営みのユニークさを考える上で参考になる。この観点から、坐禅を体壁系を極力休め、宇宙のリズムに共振している内臓系の聲に耳を澄ませることと考え、それが人の健康にどのような意味を持つかを述べてみたい。

○対話<ダイアログ> 川畑のぶこ × 藤田一照 (進行) 小笠原和葉 (ボディワーカー)

★フォーラムⅣ：2018年4月7日(土) 13:30~16:45 (会場：未定)

「秘教と原始仏教からの瞑想」

・秘教に基づく瞑想のエネルギー身体論的メカニズム

神尾 学 (ホリスティック・リーディング研究所主宰)

アリス・ベイリーの秘教の中では『ヨーガ・スートラ』で提示されたラージャヨーガの体系が「マインドの科学」として紹介され、その主な目的は「魂とつながり霊的なエネルギーや情報をおろすことによって個人だけでなく社会にも癒しや啓示を与えること」とされています。そのプロセスで見えない諸身体がどのように働いているのかお伝えします。

・瞑想がもたらす利益と不利益：心理学と原始仏教の視点から

石川勇一 (相模女子大学文教授、行者)

瞑想の実践による恩恵は莫大です。最終的かつ最大の利益は苦しみの終焉すなわち解脱ですが、解脱に向かう過程においても、数多くの恩恵があり、また実践の態度によっては不利益も起ります。心理学、精神医学、原始仏教の知見と瞑想の実践からみえてくる瞑想の恩恵と危険性についてお話しさせていただきます。

○対話<ダイアログ> 神尾 学 × 石川勇一 (進行) 戸田美紀 (NPO 法人日本ヒーリングタッチ協会会長)